

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11 (10)	会議の場で、職員個々の意見が出ない事や全職員の参加がなかなか出来ていないのが現状。全体で話し合いの場となり、報告会議ではなく、課題や目標を絞り、意見や話し合いの場となるようにする。	・2か月に1度の全体会議には全職員が参加する。 ・目標や課題を絞り意見や話し合いの場となるよう、会議やミーティングの進行を見直す。	・可能な限り全職員が会議に参加できるように体制作りを行なう。同時に、組織内での会議内容の伝達の仕組みづくりを行なう。情報の共有や意見交換がチームワークにおいて重要であることを共有する ・会議体進行のスキルを身につける。加えて、意見が出しやすい会議環境を整える。運営、管理についての職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保に繋げる	6ヶ月
2	2 (2)	気軽に足を運んで頂けるよう地域のボランティアとの交流や参加して頂ける行事の案内などを知らせる事で、グループホームと地域の繋がりを深めていけるのではないかと考える。	・2か月に1度の運営推進会議の場を有意義な場とし、地区の行事やボランティア内容など、情報交換を行う。 ・地域の行事に参加する ・ボランティアの受入	・運営推進会議にて、施設で行っている行事の案内をする。また、地区の行事の情報共有や、施設を知っていただくことを副次的な目的とした奉仕活動の提案を行なう ・施設周辺への散歩や買い物、地区の行事に参加する。 ・入居者の趣味を活かし活性化、社会参加に繋がるようボランティアの受入をする。	6ヶ月
3	33 (16)	今現在は対象者はいないが、重度化した場合、終末期支援の対応や考え方の共理解を深めておく。	重度化や終末期に向けた方針の共通理解と支援について勉強会を実施しチームで支援する。	疾患や障害が重度化した場合の対応、終末期支援の在り方等について施設内研修会を通じて学ぶ。その時々事業所総体の介護量のキャパシティを把握し、支援可能かどうかの見極めをしながら、家族ニーズを尊重し方向性を決める。内外医療関係者との連携を図りながら、チームで支援していく。	6ヶ月
4	49 (22)	日常生活の中の余暇時間に何をして過ごして頂くか又グループホーム内だけの生活にとらわれず、その人個々の生活歴を知り、日常の過ごし方を見直す必要がある。	・個々の生活歴や1日の過ごし方を見直し、認知症の予防、社会参加、活性化を図る。 ・外出支援を増やし、買物や散歩など気軽に外へ出れる機会を増やす。	・これまでの生活の継続として捉える外出 ・気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会としての外出の活用 ・個別の外出支援 本人の状態や習慣、有する力、希望、季節や地域のその時々状況に応じて一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(1))

事業所名 _____

目標達成計画

作成日：平成 年 月 日 _____

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1					ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。